

**平成25年度第4回
生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨**

○日 時：平成26年2月20日（木） 13:00～14:30

○場 所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）

○議 題：【審議事項】

1. 平成26年度公開講座等について
2. 生涯学習教育研究センター研究紀要第8号について
3. その他

【報告事項】

1. 平成25年度「知のふるさと納税」について
2. 生涯学習教育研究センター予算執行状況
3. その他 公開授業等の授業妨害について

○出席者：真栄城勉（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、柴田聡史（生涯学習教育研究センター講師）、本村真（法文学部准教授）、大島順子（観光産業科学部准教授）、里井洋一（教育学部教授）、安里英治（理学部教授）、長山格（准教授）、立田晴記（農学部准教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）

○陪席者：我那覇生治（地域連携推進課長）、下地孝之（地域連携推進係長）、新垣雄大（地域連携推進係 係員）

◆審議事項1 平成26年度公開講座等の募集について

（1）公開講座について

平成26年度公開講座等の募集について、背戸教授より資料1-1に基づき次ぎの通り説明があり、審議のうえ承認された。

本学の公開講座は、毎年増えており、平成22年は32講座、平成23年は46講座、平成24年は49講座、平成25年は56講座あった。今年は60講座の応募があり、本学に関しては全国的に公開講座の開講が少なくなっている気運に反比例して増加している。

次年度開講予定の公開講座に関しては本日の運営委員会で内容、予算等を審議していただき、承認がとれた上で講座を実施することになっている。

このことについて以下のような意見があった。

○「琉大生がサッカーと勉強教えます」について

・他の講座と比較すると経費が突出して高い。また過去の実績から見ても、支出の方が大きく収入と支出のバランスがとれていないのではないかと。

→基本的に講座の経費に関しては削減の方向で今後、調整していく予定だが、この講座に関しては1年間を通しての開講でありどうしても経費が高くなる。しかし、毎年開講している講座なので

継続的に使える物品に関しては購入を控えていただいて経費を削減してもらおう。

実際に、一人一人にかかる雇い上げの経費をサッカー部全体にかかる謝金にするなどして経費の削減に努めている。

この講座に関しては規模が大きくなってきているので COC 事業などの別の事業に変更することも考えていくべきである。

その他に大島准教授より次のとおり意見があった。

実費でかかる費用とそうでない費用の内訳を明確にすべきである。そのために、計画書の必要経費の欄を詳しく記載させる必要がある。加えて、実費負担分に係る報告を求めてはどうか。

(2) 公開授業について

平成26年度の公開授業について背戸教授より資料1-2に基づき次ぎの通り説明があった。公開授業の授業数、受講者数、収入は毎年、増加しており次年度の募集に関しては101科目の応募があった。定額料金制の導入によって公開授業も活性化してきている。

(3) COC 連携講座について

COC 連携講座について我那覇課長より以下のように説明があった。

今年度より COC 事業がスタートし、那覇、宮古島、石垣の3カ所にサテライトキャンパスを設置する。それに伴い、テレビ会議システムを活用した講座や出前講座を予定している。

本学では生涯学習教育研究センターの301講義室と大学教育センターの118講義室にサテライト教育システムを設置する。

(4) 公開講座等の料金改定について

公開講座等の料金について我那覇課長より資料1-5、1-6に基づき以下のように説明があり承認された。

4月からの消費税増税に伴い公開講座の料金も値上げすることになる。料金の改定方法としては現行の旧価格から5パーセント相当額を差し引き、税抜き金額に1.08をかけ、1円以下を切り捨てて算出する。

このことについて以下のような意見があった。

- ・公開講座の料金設定の根拠は何か。

このことについて背戸教授より以下のように回答があった。

法人化される以前は全国立大学共通の料金表があり、本学の料金規程の2倍の料金に設定されていた。本学は特例ということで料金を半額にした。その金額を引き継いだ価格が現行の料金規程となっている。

審議事項1の公開講座に関しては60のすべての講座の承認が得られた。また、教員方に対しては経費を抑えることに協力していただくこととなった。

公開講座および公開授業の料金規程に関しては8パーセントを上乗せし、1円以下を切り捨てるということが承認された。

◆審議事項2 生涯学習教育研究センター研究紀要第8号について

生涯学習教育研究センター研究紀要第8号について西本准教授より資料2に基づき説明があった。

生涯学習教育研究センター研究紀要第8号について現在、9本の論文が投稿されており、2月19日に編集委員会を開き、各論文の査読者を決定し、査読を開始している。3月の中旬には査読を終了し、5月のゴールデンウィーク明けには発刊される。

審議事項2についてスケジュールは例年通りとし、生涯学習教育研究センター研究紀要第8号の発刊が承認された。

◆報告事項1 平成25年度「知のふるさと納税」について

平成25年度「知のふるさと納税」について背戸教授より資料3-1に基づき以下のように報告があった。

離島支援プロジェクト「知のふるさと納税」は中期計画達成プロジェクトの中で行っていたものだが今年度のCOC事業採択後は先行的取り組みとしても実施している。

2月22日に久米島で行う予定であり本学から14名の学生が参加し、そのうちの5名が久米島出身の学生である。初日は久米島西中学校に訪問し、2年生の学生と交流事業を行い、その日の夜には保護者との懇談会を行う予定である。翌日は久米島高校を訪問し、大学進学を考えている1、2年生を対象に進路相談会を行う。

宮古島では中・高校生を対象とした第3回「琉大塾」を開催する。本学からは宮古出身の学生を含め、14名が参加する。今回はキャリア教育をメインとしたプログラムで実施する。今後はサテライト教育システムを利用するなどして事業の拡充に努めていく予定である。また、他組織との共同事業等も行っていきたい。

このことについて以下のような意見があった。

・「琉大塾」という名前により琉球大学の合格を目指すイベントと感じて参加をためらう学生や保護者がいるかもしれないので、できるだけ参加しやすくしていくべきである。

・琉大塾は琉球大学の合格をサポートするものではなく、琉球大学をベースにした交流事業であり徐々に周知はされてきている。

・久米島高校長から琉球大学にきてほしいとの話があり今回の実施に至った。

報告事項2 生涯学習教育研究センター予算執行状況

生涯学習教育研究センター予算執行状況について我那覇課長より以下の通り説明があった。

現在、予算の執行状況は 88.7%となっている。中期計画達成プロジェクトについては 131%となっているが、COC へ約 30 万円を振り返る予定なのでプラスマイナスゼロとなる予定である。

予算の不足分に関しては毎年、教育経費・研究経費から流用する形になっているのが現状である。

◆報告事項 3 その他 公開授業等の授業妨害について

公開授業等の授業妨害について資料 5 に基づき我那覇課長より以下のような説明があった。

法文学部の大浜准教授の授業で公開授業受講者から提出されたリアクションペーパーにカルト宗教の関係者と推測される内容で講義に対する不満と、偏った内容での主張が記入されていた。

また、授業中に質問のように話しだし自分の言いたいことだけを主張して、授業時間を割くような受講者もいた。この件についてこの場で議論していただきたい。

このことについて以下のような意見があった。

- ・大浜准教授の授業は一般の受講者が 26 名と突出して多い。基本的に公開授業に関しては一般受講者を、10 名以下の受け入れとしている。
学生が主で社会人はオプションという形で行っており、大浜准教授の授業に関しては受け入れすぎではないのか。
- ・授業終了後も質問にくるなど熱心な受講者も多い。一般受講者の受け入れ人数を多くすると対応ができない。
- ・現行の規則では公開授業の受け入れ人数は若干名としか記述がない。
- ・このような授業妨害等は学生でも起こりうることであるため一概に一般受講者だけの問題とはいえない。一般の受講者に対しては周知を徹底して教員に対しても周知をする。
- ・大学の危機管理対策検討委員会や全学教育委員会でも取り上げてもらってはどうか。
- ・公開授業募集案内の中に受講者としてふさわしくない行為等を行った場合、教員は受講者に対して受講を停止する記載が載っている。教員にはその権限があるため、この規程をしっかりと把握すべきである。

報告事項 3 については危機管理対策検討委員会と全学教育委員会に相談することになった。

また、一般受講者に対しては受講に際しての注意事項を配布することとなった。

以上